

平成28年度 奈良県中学校教育課程研究集会 【特別活動部会】

平成28年7月29日（金） 県立教育研究所

奈良県教育委員会事務局学校教育課
指導主事 遠藤 孝晃

本日の流れ

- 1 奈良県学力・学習状況調査の結果から
- 2 学習指導要領改訂の動向について
- 3 特別活動の今後の方向性について
- 4 まとめ

1 奈良県学力・学習状況調査の結果から

奈良県学力・学習状況調査

平成28年4月19日(火)

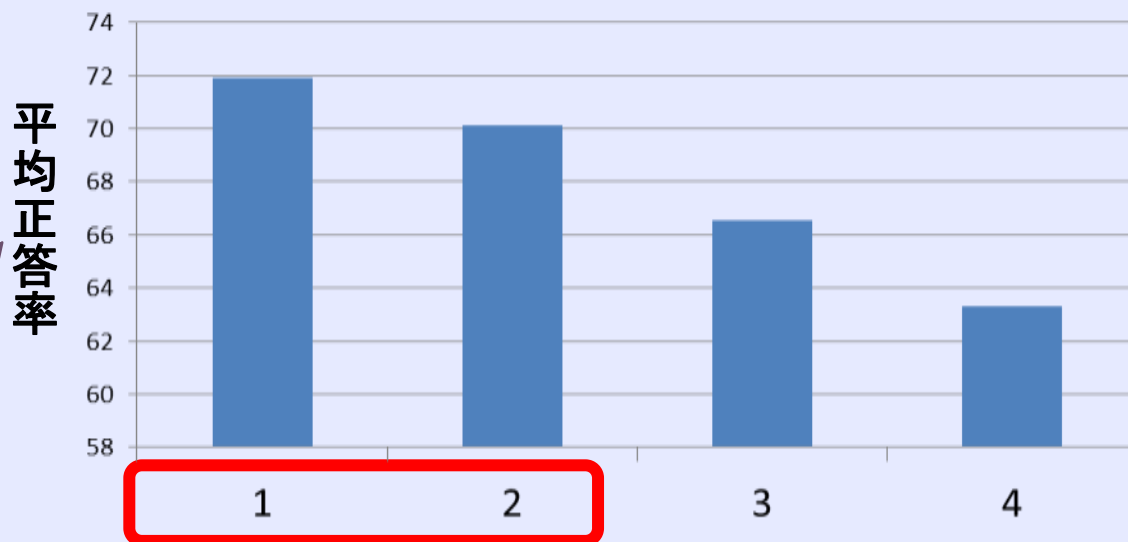
- 学力調査
- 生徒質問紙調査
- 教員質問紙調査

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉

下のグラフにおいて、「家で復習をしている」と答えた生徒ほど平均正答率が高く、「復習をしていない」と答えた生徒ほど平均正答率が低い。

質問に対する回答結果と平均正答率との間に、このような関係が見られるものを紹介する。

家で、学校の授業の復習をしていますか



国語と数学の相加平均

平均正答率

- 1 している
- 2 どちらかといえばしている
- 3 どちらかといえばしていない
- 4 していない

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉①

○家庭学習状況

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う。

○自尊感情

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分は、先生から認められていると思う。
- ・自分には、よいところがあると思う。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉②

○規範意識

- ・ 学校の規則を守っている。
- ・ 友達との約束を守っている。
- ・ 学校では、先生に挨拶をしている。

○社会に対する興味・関心

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・ 家庭で、地域や社会で起こっている問題や出来事を話題にしている。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉③

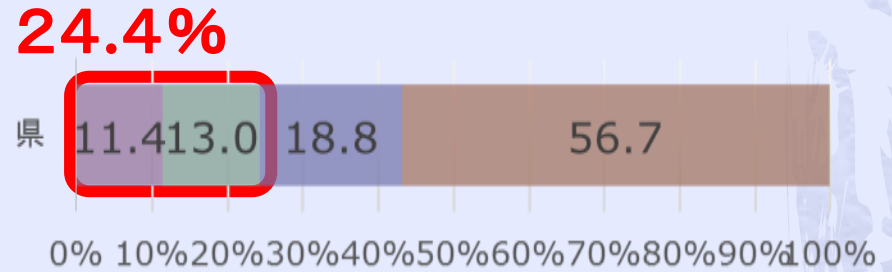
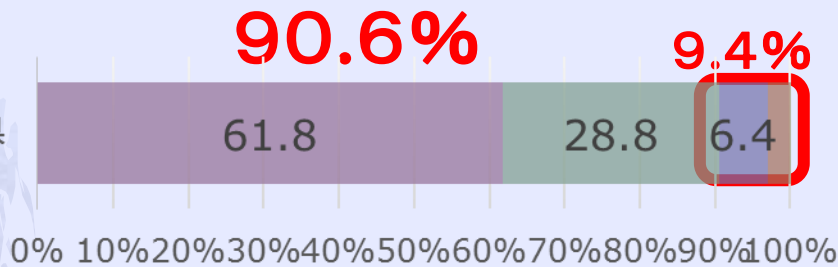
○授業において

- ・ 小学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・ 小学校では、授業のはじめに目標（めあて、ねらい）が示されていたと思う。
- ・ 小学校では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

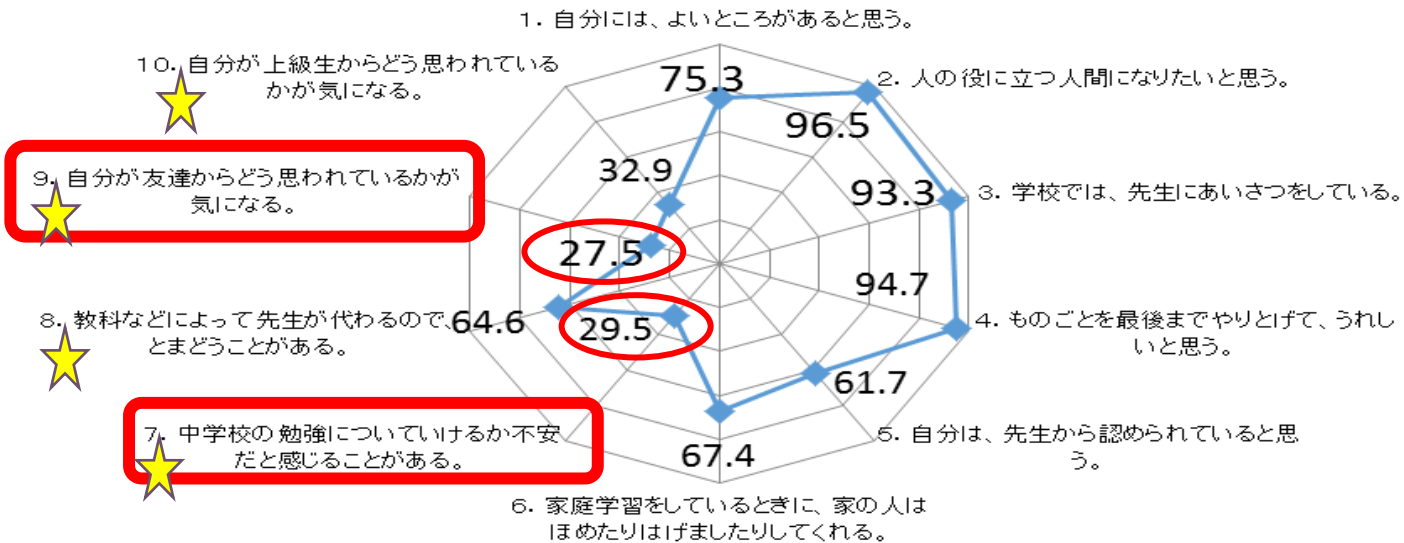
奈良県学力・学習状況調査（生徒質問紙調査）

○ 学校に行くのは楽しいですか。

○ 学校に行けない、または、行きたくないと思うことがありますか。



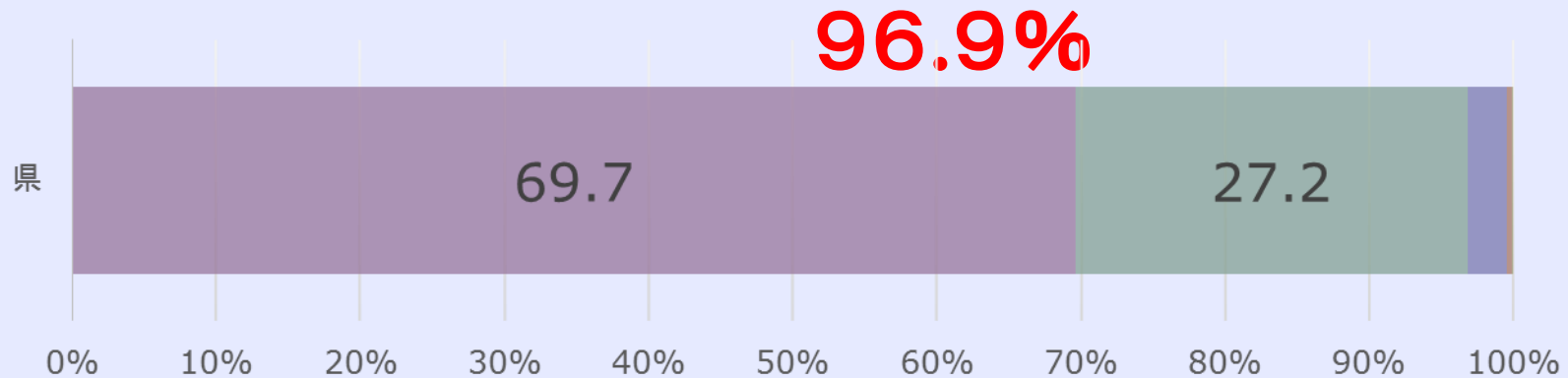
生徒質問紙調査（県平均）



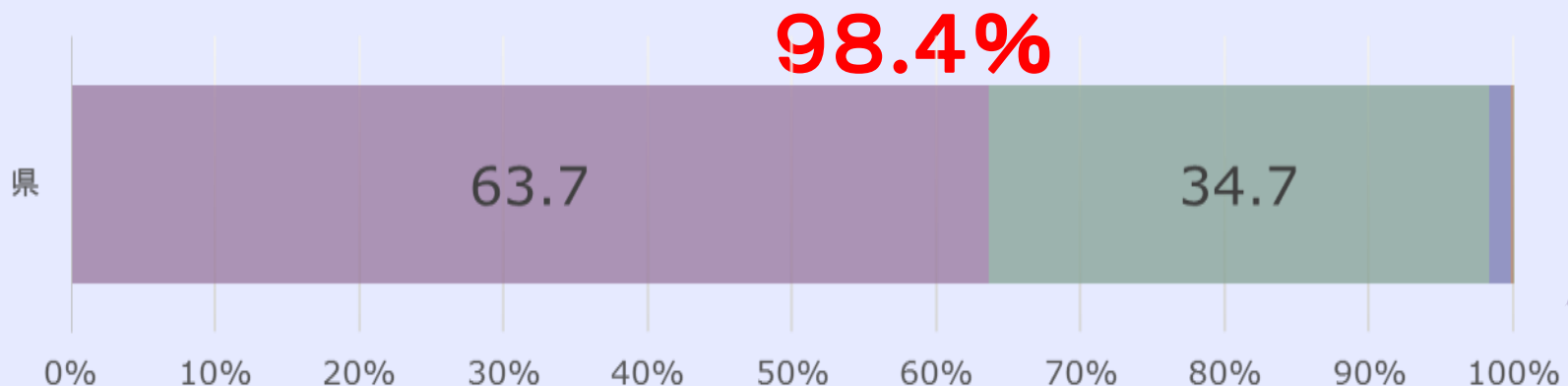
※設問1～10のうち、
1～6は、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合の合計
7～10は、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した生徒の割合の合計を表す。

奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

○ 生徒に学校や地域で挨拶をするよう指導していますか。

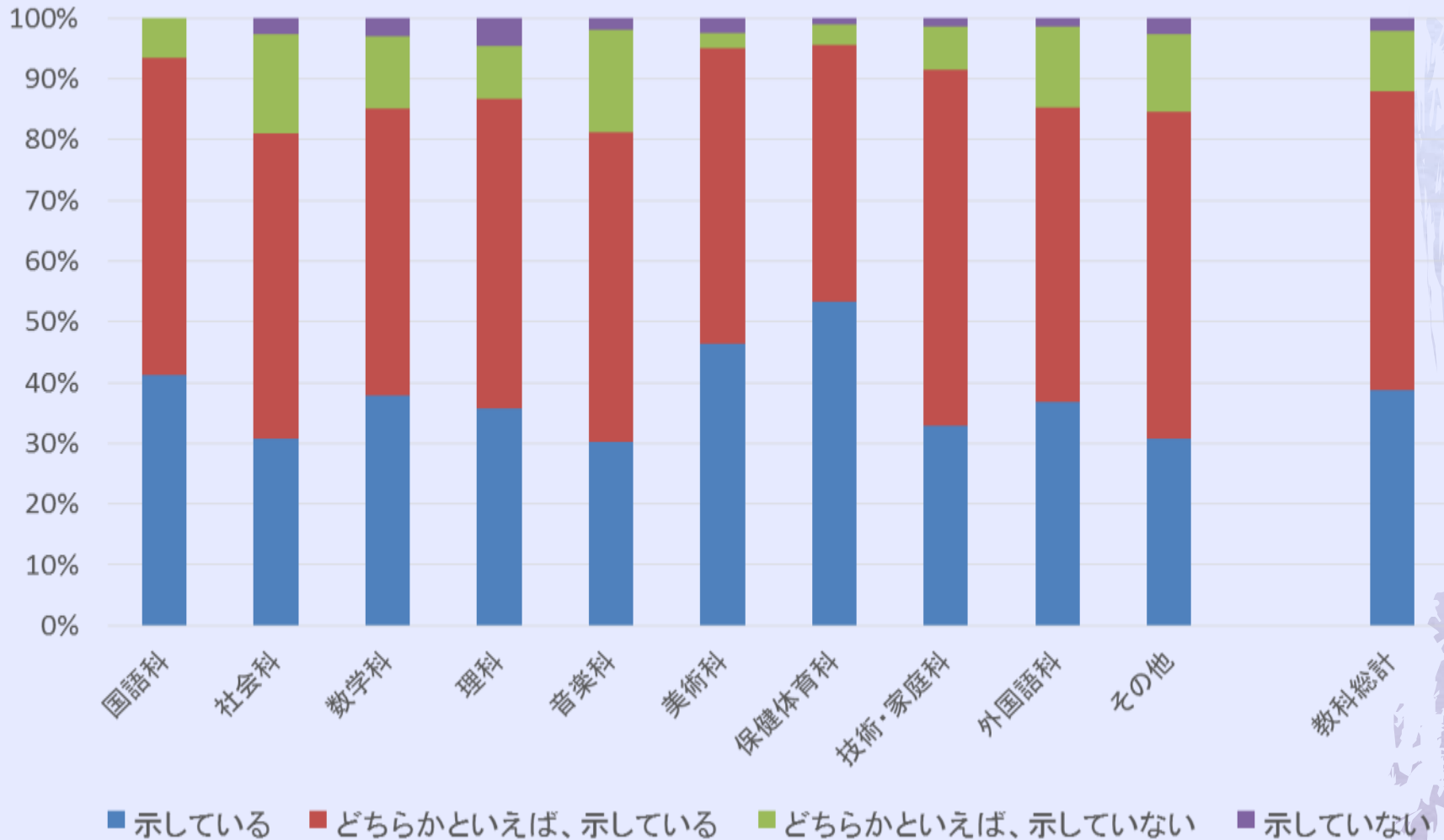


○ 学校では、生徒のよいところを見つけ、褒めていますか。



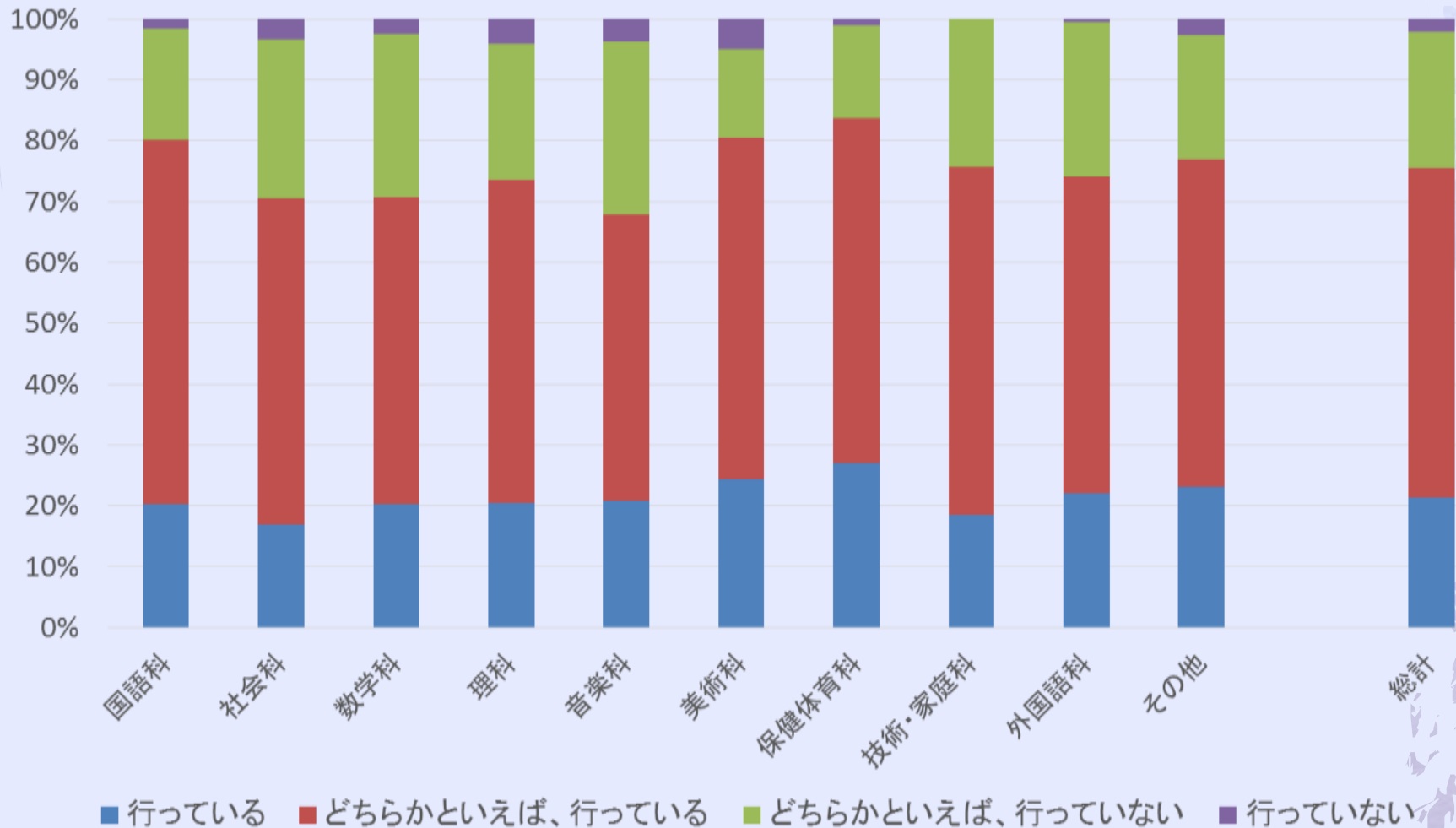
奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

授業のはじめに目標を示していますか



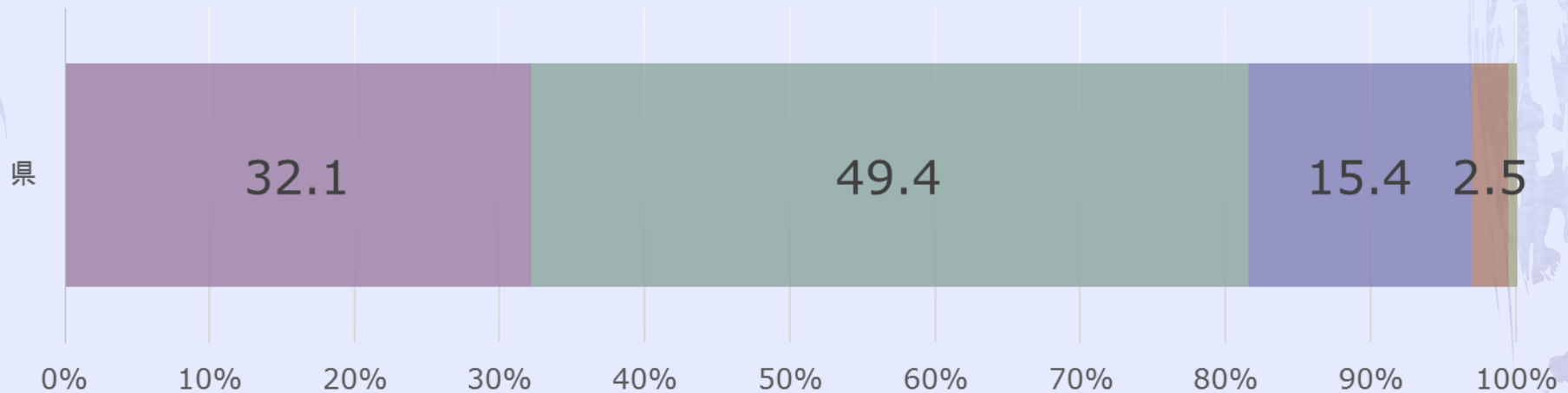
奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていますか

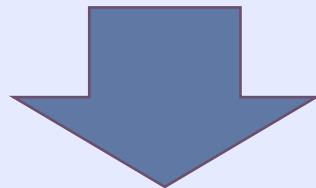


奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

- 学校全体の学力傾向や課題について、他の職員と共有していますか。



奈良県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査




自校の生徒の実態を共有

教職員の一致した指導

2 学習指導要領改訂の動向について

これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール

平成26年11月	中央教育審議会総会 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
平成26年12月	教育課程部会 ・ <u>教育課程企画特別部会</u> を設置
平成27年1月	教育課程企画特別部会（第1回）  新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
平成27年8月	教育課程企画特別部会（第14回） 教育課程部会 ・「論点整理」をとりまとめ
平成27年 秋以降	論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
平成28年	教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のまとめ
平成28年度内	中央教育審議会として答申

（小学校は32年度から、中学は33年度から全面実施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。）

21世紀が知的基盤社会であるという認識は、前回改訂と共通。
グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、
将来の予測がますます難しい時代に。

(現代的な課題)

- ・ 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できること。
- ・ 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができること。
- ・ 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育ていくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年5月23日
教育課程部会
総則・評価特別部会
資料3-1

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

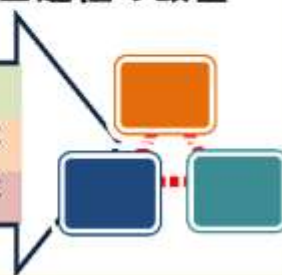
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

各学校段階を通じた教育のイメージ（検討案）

【高等学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活やより主体的な社会参画、その後の専門的な学習のために必要となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【中学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活の基盤となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【小学校】

⇒主に日常生活から身近な社会生活を送るにあたり必要となる資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【幼児教育】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、初等中等教育の出口のところで身に付けておくべき力を明確にしながら、幼・小・中・高の教育を、縦のつながりの見通しを持って系統的に組織していくことが重要（「論点整理」より）
- これを踏まえ、小・中・高については、育成すべき資質・能力の三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」）に沿って、各学校段階で育成すべき資質・能力を明確化することとしてはどうか。
- その上で、学習指導要領・総則において、各学校段階の教育を通じて育成すべき資質・能力として示すこととしてはどうか。
- なお、幼児教育については、三つの柱に沿って資質・能力の育成を行うが、遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育まれるため、5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として整理している。

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

中央教育審議会小学校部会におけるこれまでの議論のとりまとめ(平成28年3月14日)

- 小学校教育の在り方 低学年・中学年・高学年
- 育成すべき資質・能力とカリキュラム・マネジメント
- 言語能力の育成
 - ①創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面、②感性・情緒の側面、③他者とのコミュニケーションの側面
- 国語教育の充実 言葉の働き、仕組みに関する理解
- 外国語教育の充実 「前倒しするのではなく」

「高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、外国語科を中心に、教科目標を踏まえつつ、まとまりのある授業時数との関連性を確保した上で、効果的な繰り返し学習を行う短時間学習を実施することが考えられるが、他にも、45分に15分を加えた60分授業の設定、夏季、冬季の長期休業期間における学習活動、土曜日の活用や週あたりコマ数の増なども考えられるところであり、場合によってはこれらを組み合わせながら、地域や各校の実情に応じた柔軟な時間割編成を可能としていくことが求められる。」

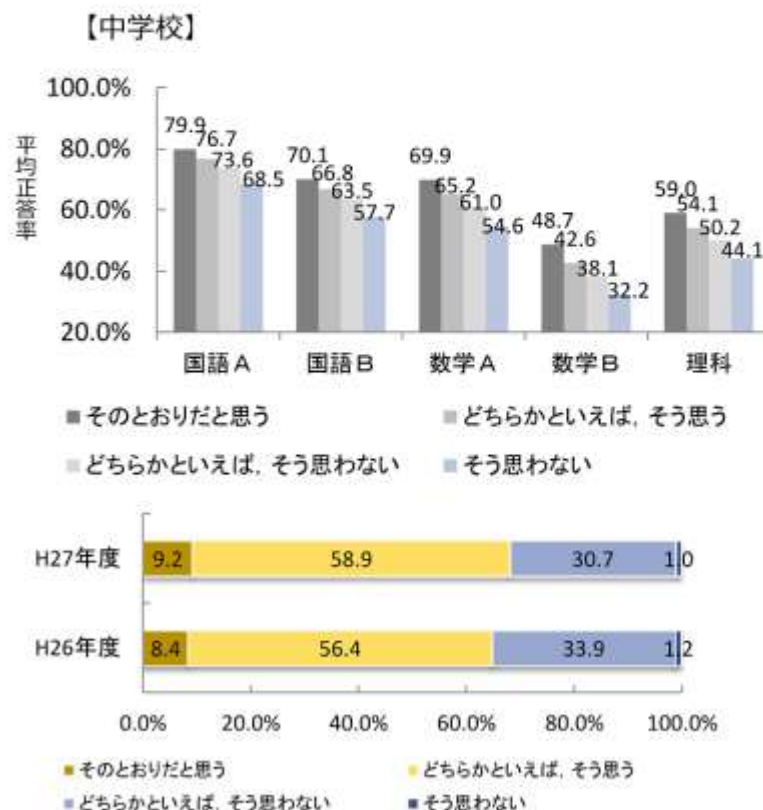
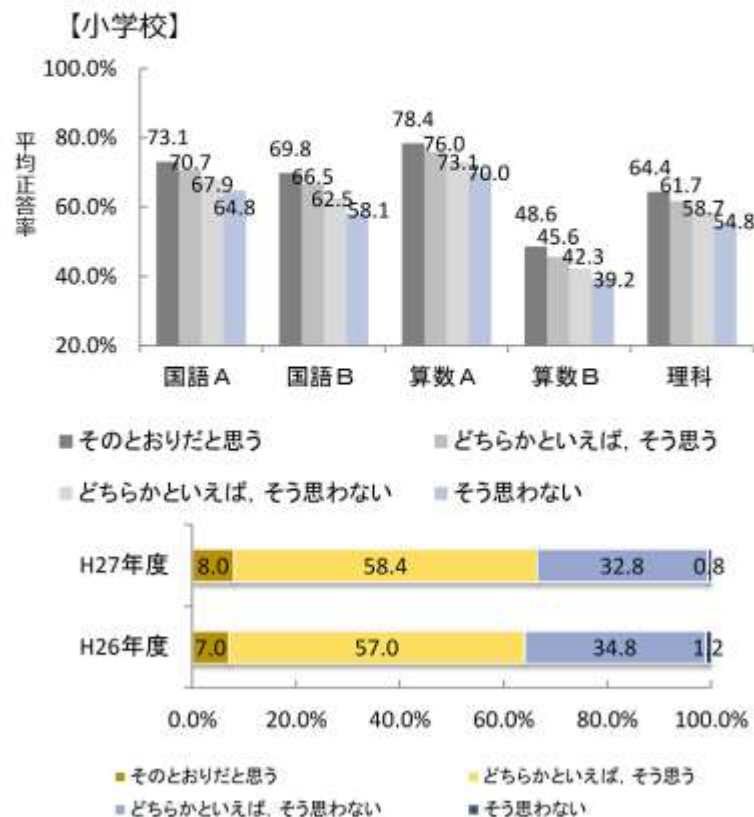
「中学年については、外国語活動を短時間学習で行うことや、60分授業の設定は難しいと考えられるが、その他については同様の考え方に基づき、地域や学校の実情に応じた柔軟な時間割編成を可能としていくことが求められる。」 ← 条件整備

深い学びと学力の関係 ー平成27年度全国学力・学習状況調査の結果からー

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった。

【質問項目】

調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。



※選択肢毎の平均正答率は、選択肢の回答数が100校未満のものについては、一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」

○「論点整理」におけるアクティブ・ラーニングの視点

【深い学び】

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

【対話的な学び】

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

【主体的な学び】

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

総則・評価特別部会及び各教科等WGの議論を踏まえ、以下のように整理できるのではないか

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

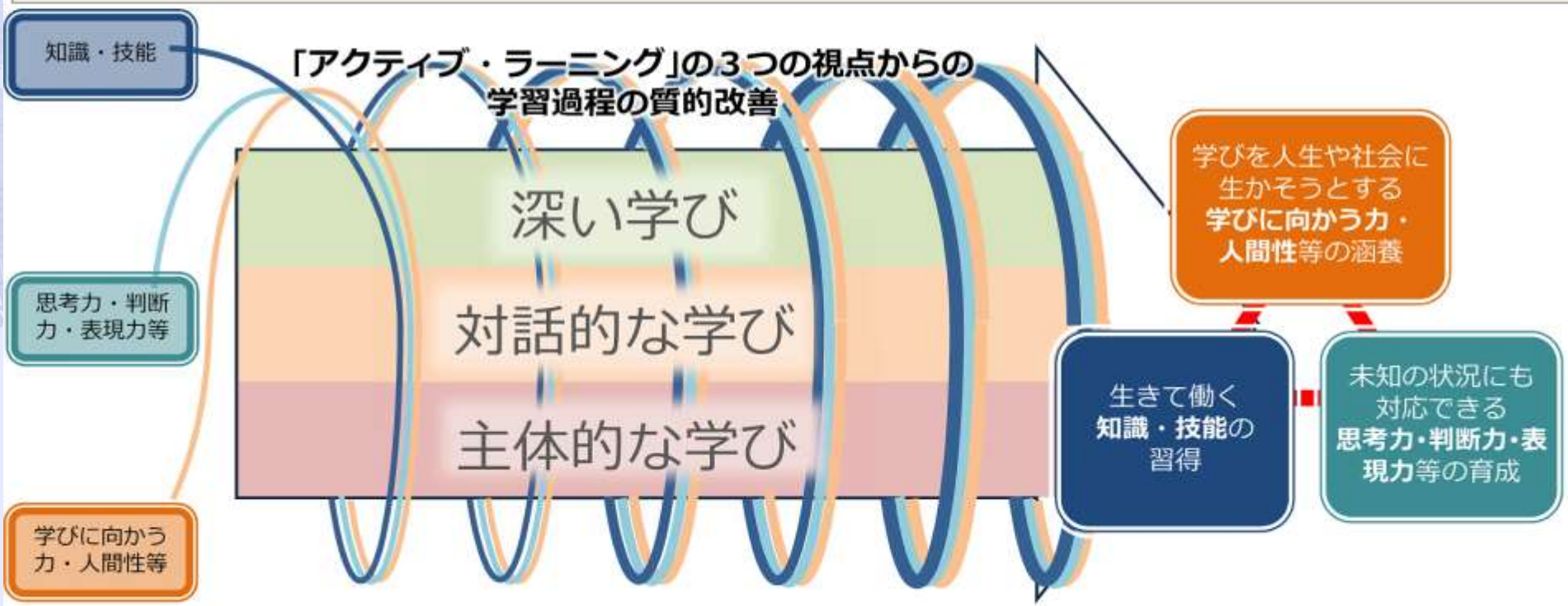
子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の 4 観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

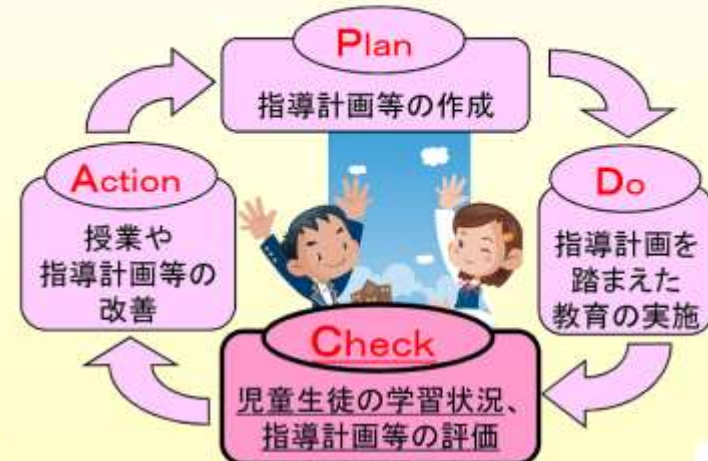
思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



各教科等の評価の観点のイメージ（案）

<p>観点（例）</p> <p>※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
<p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討</p>	<p>（例）</p> <p>〇〇を理解している／〇〇の知識を身に付けている</p> <p>〇〇することができる／〇〇の技能を身に付けている</p>	<p>（例）</p> <p>各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている</p>	<p>（例）</p> <p>主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている</p>

（出典）平成28年3月14日 総則・評価特別部会

学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」平成28年5月10日)

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、**二項対立的な議論には戻らない**。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、**学習内容の削減を行うことはしない**。

高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、**知識が生きて働くものとして習得**され、必要な力が身に付くことを目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための**学習過程の質的改善**を行う。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。

- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う(小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」等の新設など)。

**本年度中に学習指導要領を改訂し、
2020年から順次実施。**

高等学校は来年度改訂

3 特別活動の今後の方向性について

特別活動の経緯と成果

- 特別活動は、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成することに大きな役割を果たしてきた。
- 前回の改訂で、全体目標を受けて各活動の目標や内容を明示するなどの改善によって充実が図られた。前回の改訂で、楽しかったとか満足したとかでは終わらせず、資質・能力を追う特別活動にしたことは重要であった。
- 「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標に加え、道徳的実践の重要な学習活動の場としても充実が図られた。
- 全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にある。また、特別活動を中核において学校経営や学級経営をしている、または研究を続けている学校では、学力向上、不登校の減少など様々な成果がみられる。
- 特別活動により、児童生徒にそれぞれの集団への所属感、連帯感を育み、ひいてはそれが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としている。

特別活動の課題とさらなる期待

- 各活動において身に付けるべき資質・能力や特別活動における学びがどのような学習過程を経て行われることでさらなる資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態がある。
- 前回の改訂で各活動の目標が規定されたものの、その内容や指導（活動）のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践されてきたという実態がある。中学校では学級活動の内容項目が多いことが、話し合い等の活動が深まらない要因の一つとなっていると考えられる。改訂を通じて、改めて特別活動が果たしてきた役割、これから果たしていくべき役割を広く共有し、実践につなげることが必要である。そうした共有を図るためには、これまで必ずしも特別活動に深く向き合ってこなかった教員も含め、小・中・高等学校及び幼児教育関係者、保護者や地域の人々に分かりやすく伝えられるようなものにしていくことが必要である。
- 社会参画に対する意識の低さが課題となっている中で、特別活動において自治的能力を育むことがこれまで以上に求められている。先の見通せない時代においては、多様な他者と互いのよさを生かしながら、自ら将来を切り拓いていく力が求められ、複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点からも、特別活動に求められるものは大きい。

特別活動の今後の方向性について

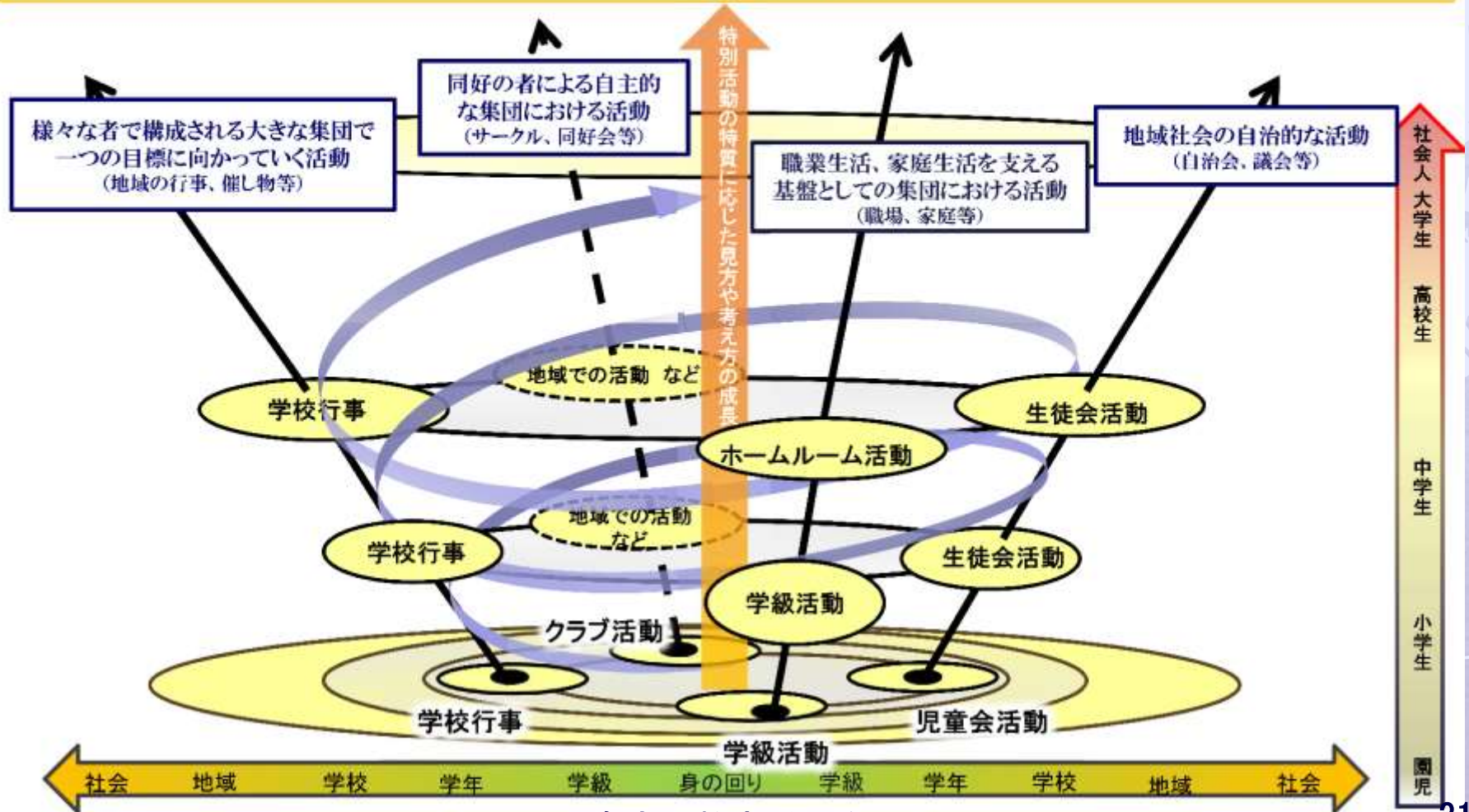
教科等の特質に応じ育まれる見方・考え方

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料3

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、**集団や社会の形成者**という視点から問題を見出し、**よりよい人間関係の形成**、**よりよい集団生活の構築**や**社会への参画**及び**自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること



《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見いだし、**よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること

特別活動の今後の方向性について

特別活動において育成すべき資質・能力について

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて特別活動において育成すべき資質・能力の整理（案）

平成28年6月22日
特別活動WG
資料4

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることへの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることへの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることへの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

特別活動において育成すべき資質・能力について

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

特別活動の今後の方向性について

特別活動において育成すべき資質・能力について

資質・能力の三つの柱に沿った、中学校を通じて特別活動において育成すべき資質・能力の整理（案）

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情念、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
学級活動	<p>同年齢の身近な集団における活動を通して獲得する知識・技能</p> <p>身近な生活集団についての意義や役割についての理解</p>		<p>同年齢の身近な集団における活動を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 新たな環境や人間関係に適応しようとする態度を育成 ○ よりよい生活をつくろうとする態度を育成 ○ 他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成 □ 日常生活を主体的に改善しようとする態度を育成 □ 自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考えようとする態度を育成
特別活動 において 基盤とな る資質・能 力を育む 活動			
生徒会活動	<p>異年齢により構成される役割を共有する集団における活動を通して獲得する知識・技能。</p> <p>自治的組織についての意義や役割についての理解</p>		<p>異年齢により構成する役割を共有する集団における自治的な活動を通して、主に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解しようとする態度を育成 ○ 学校や地域・社会の形成者として、よりよい学校生活をつくろうとする態度を育成
学校行事	<p>学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して獲得する知識・技能。</p> <p>行事についての意義や役割についての理解</p>		<p>学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して、主に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解しようとする態度を育成 ○ 所属感、連帯感、公共の精神などをもち、よりよい生活をつくろうとする態度を育成 <p>儀式的行事：厳かな場において規律、気品ある行動をとろうとする態度 文化的行事：文化芸術に親しもうとする態度 健康安全・体育的行事：心身ともに健全な生活を実践しようとする態度 遠征・集会的行事：自然や文化に親しもうとする態度 勤労主体・奉仕的行事：ボランティア精神、進んで奉仕しようとする態度</p>

特別活動の目標について

特別活動のイメージ（たたき台）

平成28年6月22日
特別活動WG
資料5

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、**集団や社会の形成者**という視点から問題を見出し、**よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること

特別活動における自主的・実践的な活動や生徒指導の機能、ガイダンスの機能が学級生活の基盤、学校生活の基盤をつくる

↑ 生活範囲や人間関係の多様性の広がり

集団活動を通じた学級・学校文化の創造

学校の教育目標

各教科等

○学級経営の充実を図る特別活動の役割や、学びに向かう学習集団の形成への寄与により、各教科等における「主体的な学び」「協働的な学び」がより充実する。
○特別活動における、各教科等における「協働的な学び」がより充実する。
○実践的な文脈で見方や考え方を活用し、それができるような状況になるなど、教科等の見方や考え方が成長し、「深い学び」が実現する。

【高等学校】

- 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら葛藤や問題解決を繰り返すことを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
- 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団が生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

【中学校】

- 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら直面する課題を解決することを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
- 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

【小学校】

- 集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を改善することを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
- 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

【幼児教育】

【健康な心と体】

・幼稚園生活の中で満足感や充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、楽しさを持って自ら健康で安全な生活を作り出しているようになる。

【自立心】

・自分の方で行うために思いを込め、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずやり続けることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動できるようになる。

【協同性】

・友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、実際に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり続けるようになる。

【道徳性・規範意識の芽生え】

・よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。

【社会生活との関わり】

・家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域の一層の親しみを持つようになる。
・情報を伝え合ったり、情報に基づき思いを合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、社会全体のつながりの意識等が芽生えるようになる。

【思考力の芽生え】

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを込めながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

【自然との関わり・生命尊重】

・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
・身近な動植物を生命あるものとして、いたわり大切にしている気持ちを持つようになる。

特別活動の目標について【中学校】

- ◎**集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方や考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら直面する課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。**
- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
- 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

特別活動の今後の方向性について

資質・能力を育む学習過程の在り方

特別活動における各活動の意義や役割(学級(ホームルーム)活動)(案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料6

学級(ホームルーム)活動

①問題の発見・確認

活動内容

(i)学級や学校における生活の諸問題に気付き、その中から議題を学級全員で決定する。話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。
(ii)日常生活や自己の課題、目標、学業や進路に関する内容について、教師が設定した課題を確認し、解決の見通しをもつ。

資質・能力(例)

- :情報の収集・整理などを通し、学級や学校生活、地域・社会の課題を発見する力
- :自己の課題に気づく力、自己の適性を把握する力
- :目標を設定する力

②解決方法の話し合い

(i)よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。
(ii)設定された課題の状況や自分の問題の状況を把握し、原因や具体的な解決方法などについて話し合う。

- :集団活動における自己の役割やその意義についての理解
- :協働して問題を解決しようとする態度
- :生活を改善したり、将来を見通して自己の生き方を選択したりできる力

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

- :希望や目標をもって現在の生活を改善しようとする態度
- :よりよい生活をつくらうとする態度
- :学級や学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度
- :自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度

④決めたことの実践

決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践する。

- :合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
- :課題解決に向かおうとする情意や態度
- :よりよい生活をつくらうとする態度
- :日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力

③解決方法の決定

話し合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図ったり、意思決定したりする。

次の課題解決へ

特別活動の今後の方向性について

資質・能力を育む学習過程の在り方

特別活動における各活動の意義や役割(児童(生徒)会活動)(案)

児童会(生徒会)活動

①問題の発見・確認、議題の設定

活動内容

代表委員会、生徒評議会: 学校における問題の発見・確認
 各種委員会: 所属する委員会の所掌の範囲内における学校の問題の発見・確認
 生徒総会(中学校、高等学校のみ): 学校の取組に関する計画の設定及び報告等、議題の提示

資質・能力(例)

- : 情報の収集・整理などを通し、学校、地域・社会の課題を発見する力
- : 学校や地域・社会の形成者として、よりよい生活をつくろうとする態度
- : 目標を設定する力

②解決に向けての話合い

発見した問題の解決の方向性や解決方法の話合い
 生徒総会: 議題に関する解決方法についての説明

- : 集団活動における自己の役割やその意義についての理解
- : 協働して問題を解決しようとする態度

◇: よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。結果を分析し次の課題解決に生かす。

- : よりよい生活をつくろうとする態度
- : 問題を解決し、よりよい生活を作ろうとする態度
- : 学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度

④決めたことの実践

解決方法や活動内容について、各学級や各委員会への周知等、解決方法の実践
 生徒総会: 議決された事項について実践

- : 合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
- : 課題解決に向かおうとする情意や態度
- : よりよい生活をつくろうとする態度
- : 集団活動における自己の役割やその意義についての理解

③解決方法の決定

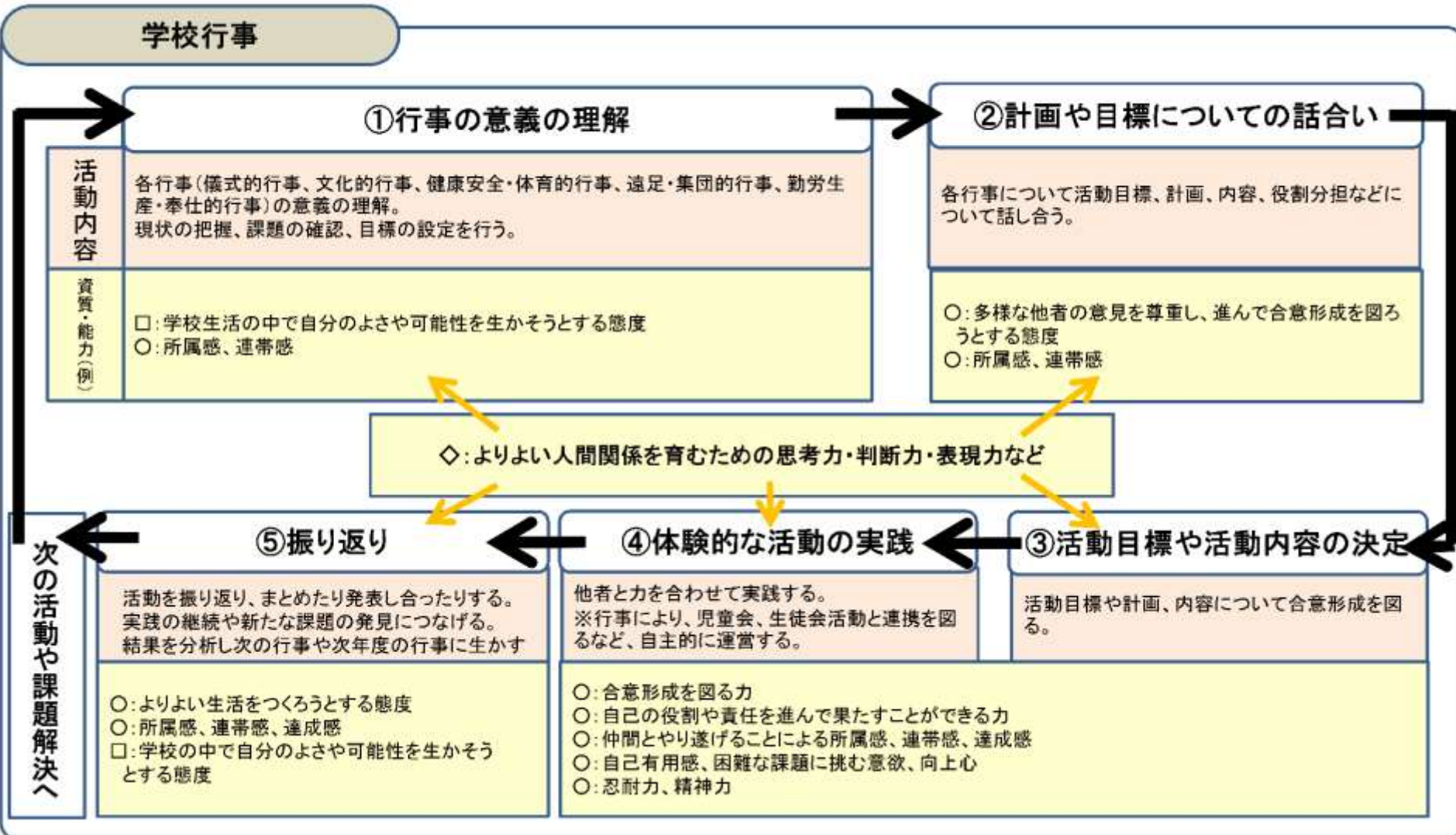
解決方法や活動内容についての合意形成
 生徒総会: 解決方法への賛否の表明、議決

次の課題解決へ

特別活動の今後の方向性について

資質・能力を育む学習過程の在り方

特別活動における各活動の意義や役割(学校行事)(案)



特別活動の今後の方向性について

「目標に準拠した評価」に向けた評価の在り方

特別活動の評価の観点(案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料7

- 特別活動の評価については、学習指導要領に定める特別活動の目標を踏まえ、各学校が自ら設定した観点を記載した上で、学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動（小のみ）、学校行事の活動ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる状況にある場合に○を記入。併せて、「行動の記録」や「総合所見」欄についても活用。
- 今般の全教科横断的な評価の観点の見直しの方向性を踏まえると、各学校において評価の観点を設定するにあたっては、以下のような趣旨を踏まえた設定を行うことが適当ではないか。

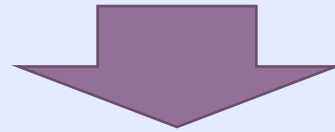
評価の観点		よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能（仮）	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現（仮）（現行では「思考・判断・実践」）	主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする態度（仮）
観点の趣旨 (イメージ)	高等学校	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し、技能を身に付けている	所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりするために、思考・判断・表現している	自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己実現を図ろうとしている
	中学校	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し、技能を身に付けている	所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりするために、思考・判断・表現している	自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己実現を図ろうとしている
	小学校	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し、技能を身に付けている	所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりするために、思考・判断・表現している	自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己実現を図ろうとしている

アクティブ・ラーニングの三つの視点に即した特別活動の授業改善

①「深い学び」の視点

「深い学び」＝子どもたちが習得・活用・探究を見通した学習過程の中で「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、「見方・考え方」を成長させながら、資質・能力を獲得していけるような学び

- ・ 特別活動は「実践」を重視しており、課題の解決方法も自身が行動に移せるものでなければ意味がないが、ここで「実践」といったときに、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉えることが重要であり、「深い学び」を考える上ではこの「実践」のプロセスとの関係で資質・能力を捉えていくことが大切
- ・ これまでの特別活動においては「なすことによって学ぶ」ということが強調され、「実践」のプロセスや育成すべき資質・能力といったことへの意識がおろそかとなり、活動ありきで行われていることも散見



一連のプロセスの中で、見方・考え方を働かせ育成すべき資質・能力は何なのかということを確認にした上で、各活動や学校行事を意図的、計画的に年間指導計画に位置付け指導に当たることが「深い学び」のために求められる。

アクティブ・ラーニングの三つの視点に即した特別活動の授業改善

②「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」＝他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び

- ・特別活動においては、集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることが求められる
 - 他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる
 - よりよい合意形成を図るだけに止まらず、学びの質を高めることにもつながる
- ・児童会活動・生徒会活動やクラブ活動における異年齢での活動や、障害のある児童生徒との交流・共同学習は、対話をしながら様々な他者と協働する力を付ける重要な場面



特別活動における「対話的な学び」から、よりよい学習集団の形成を通じて、他の教科等における「対話的な学び」がより効果的に行われるようになる。

特別活動の学びの場は学校内だけでなく、地域の人や様々な交流を通じて自らの考えを広めたり、自己肯定感を高めたりすることも大きな意味をもつ。自然体験活動を通じて自然と向き合い、日常得られない気付きを得ることも「対話的な学び」である。

最終的には自分自身で意思決定することであっても、その過程において他の児童生徒や教員等との対話を通じて、様々な気付きを得ることも重要である。

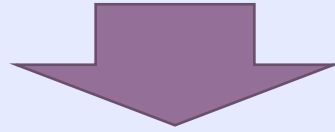
アクティブ・ラーニングの三つの視点に即した特別活動の授業改善

③「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」＝学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び

- ・ 特別活動の特質としてきた、児童生徒の自主的な活動が「主体的な学び」となるようにする上では、課題の設定及び振り返りが重要
- ・ 特別活動の過程において見いだす課題とは、実際に生じている問題への対処にとどまらず集団生活をよりよくするためには何に取り組んだらよいのかということを主体的に見いだそうとすること
- ・ 活動を振り返り、よい点や改善点を見付け出すことによって、新たな課題の発見、設定ができ、それが次なる動機となる
- ・ 学習のプロセスを意識して、そこで育成すべき資質・能力を明確にすることが、「主体的な学び」を達成する上で求められる

アクティブ・ラーニングの三つの視点に即した特別活動の授業改善



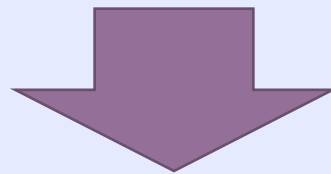
特別活動においては、集団としての振り返りを行うことと、一人一人の振り返りを行うことの両方ともが重要である。長い時間をかけて一人一人に学びの見通しをもたせ、学びの振り返りや蓄積を図ることも求められ、その際、実践したことだけではなく、自分がどのように取り組むかといった目標や活動計画、取組のプロセスなどをポートフォリオ等を活用し、残せるようにすることが重要である。

振り返りは、活動の最後に設定して行うものとは限らず、集団で試行錯誤を行う中で、児童生徒が見通しを立てたことを確認し、必要に応じて改めて見通しを立て直したりすることも大切である。こうした振り返りを主体的に行う力を付けていくことも「主体的な学び」の視点に求められることである。

※主体的な学びを促すことは、教員が何も関わらないということではない。発達の段階や集団の状況、活動の場面などを考慮しながら、必要に応じて、主体的に考えることを促すような関わりをしていくことができることが教員に求められる。

教育課程全体における特別活動の役割

- ①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割
- ②各教科におけるより主体的・対話的で深い学びの実現に寄与する役割
- ③教育課程外も含め学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割



この三つの役割をバランスよく果たしていくようなカリキュラム・マネジメントが求められる。

現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

- キャリア教育の視点について
- 防災を含む安全教育の視点について
- 食に関する視点について
- 主権者教育の視点について
- 集団宿泊活動
- 情報活用能力とプログラミング

必要な条件整備等について

- 教員研修
- チームとしての学校の視点
- 学校間の連携
- 地域との連携、協働
- 家庭との連携
- 小規模校における工夫

4 まとめ

現行学習指導要領のさらなる充実を

○これからの特別活動の方向性が示され、改訂により、目標の書き表し方などがかなり変わることが予測される

(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点での整理)

※しかし、この視点はこれまで特別活動で大事にしてきたところでもある

現行学習指導要領のさらなる充実を

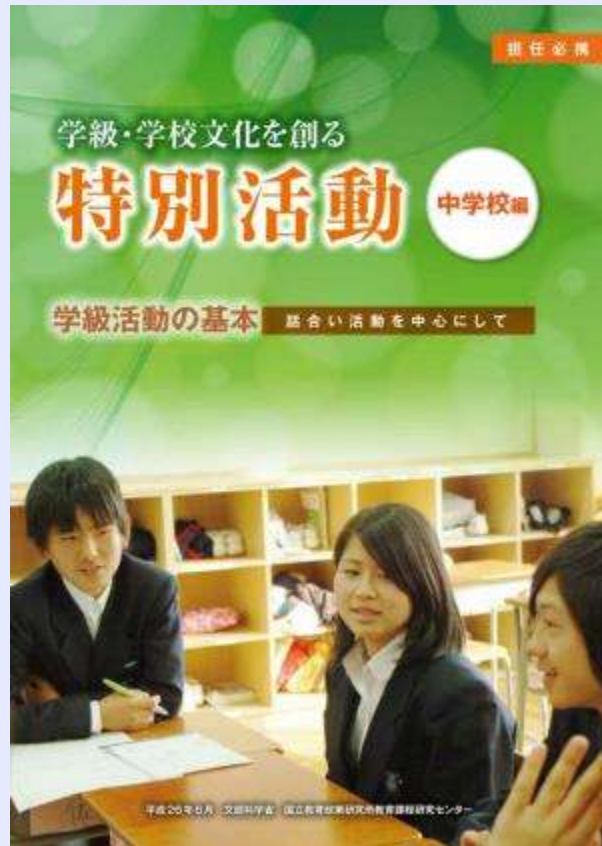
特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめや不登校などの問題に対する予防薬的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない大切な教育活動である。

このうち、**学級活動**は、望ましい人間関係づくり、学習や生活へのよりよい方向付けと健康や安全を確保する学級経営と密接に関連している。また、**教科担任制**となる中学校において、**学級担任が学級に関わる機会は限られているからこそ、学級活動を重視する必要がある。**

そこで、本資料では、特別活動の中でも「学級活動」に焦点化を図って指導のポイント等を解説している。さらに、互いの意見の違いを超え、よさを生かしながら合意形成を図ったり、効果的に自己決定につなげたりする「話し合い活動」を特に意識して編集している。



現行学習指導要領のさらなる充実を



特別活動 指導資料

学級・学校文化を創る

特別活動【中学校編】

学級活動 生徒会活動 学校行事

文部科学省 国立教育政策研究所
教育課程研究センター

の意義と具体的指導が
Q&Aと事例方式でよくわかる!

現行学習指導要領のさらなる充実を

子どもたちにどのような力を付けたいかという点は、新しい時代の要請等も与しながら変わってはいくが、現行学習指導要領で大事にしている点も、しっかりと充実を図る必要がある。

特別活動は、教科書がない分、活動内容(1)と(2)の違いを明確にしながら、子どもたちにしっかりと力を付けて、自ら自分たちのよりよい生活や人間関係を築く力を付けていく。

endo-takaaki@office.pref.nara.lg.jp